

STAGE+を楽しむ(78)(HP 収載)

—星空とクラシック音楽—

1. 始めに

前報(77)に引き続き、STAGE+の星空とクラシック音楽の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、星空とクラシック音楽の演奏を選びました。

星空とクラシック音楽—ガランチャ、テテルマン&フレンズ

シュティフト・ゲットヴァイク修道院

収録日: 2022年7月6日

ドナウ川の上空に佇むシュティフト・ゲットヴァイク修道院で、スペシャルなオペラ・ガラが開催されました。ベルカントからヴェリズモを経て南米の鮮やかな色彩まで幅広いレパートリーをカバーするこのオペラ ガラ。ガランチャを筆頭に、ウィーン・フォルクスオーパーのオーケストラを指揮する彼女の夫カレル・マルク・チチョン、スター・テナーのジョナサン・テテルマン、スペインのソプラノ歌手マリナーナ・モンツォ、そして将来を期待されるマリー=ゾフィー・ヤンケの演奏をお楽しみいただけます。星空の下で行われた忘れがたい一夜です。

ソリスト:

エリーナ・ガランチャ (メゾソプラノ)、ジョナサン・テテルマン (テノール・サクソフォン)、マリナーナ・モンツォ (ソプラノ)、マリー=ゾフィー・ヤンケ (メゾソプラノ)

演奏:

ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団

指揮:

カレル・マーク・チチョン

曲目:

ジョアキーノ・ロッシーニ 《ウィリアム・テル》序曲 (終曲)

ガエターノ・ドニゼッティ

歌劇《アンナ・ボレーナ》より "Per questa fiamma indomita"

エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)

ガエターノ・ドニゼッティ

歌劇《シャモニーのリンダ》より "Ah! tardai troppo... I luce du quest' anima"

マリーナ・モンツォ?(ソプラノ)
ジャコモ・プッチーニ 歌劇《蝶々夫人》より "Addio fiorito asil"
ジョナサン・テテルマン(テノール)
ジュゼッペ・ヴェルディ
歌劇《リゴレット》より "Signore ne principe... Eil sol dell'anima...
Addio addio"
ジョナサン・テテルマン(テノール)
マリーナ・モンツォ(ソプラノ)
ルッジェーロ・レオンカヴァッロ 歌劇《道化師》より間奏曲
ヴィンチェンツォ・ベッリーニ
歌劇《ノルマ》より "Eccola! Va, mi lascia... Va, crudele... Vieni in Roma"
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)
ジョナサン・テテルマン(テノール)
ジョアキーノ・ロッシーニ 歌劇《セビリアの理髪師》より "Una voce poco fa"
マリーニヅフィー・ヤンケ(メゾソプラノ)
ヘロニモ・ヒメネス 歌劇《セビリアの理髪師》より "Me ilaman la primorosa"
マリーナ・モンツォ(ソプラノ)
伝承曲 Vai lavar a cara (編曲版)
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)
パブロ・ソロサバル 歌劇《酒場の女》より "No puede ser!"
ジョナサン・テテルマン(テノール)
フェデリコ・モレーノ・トロバ
歌劇《ルイサ・フェルナンダ》より "Subir, subir y luego caer"
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)
ジョナサン・テテルマン(テノール)
Damaso Perez Prado 《マンボ》(チチョンによる編曲版)
フランツ・レハール 歌劇《微笑みの国》より "Dein ist mein ganzes Herz"
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)
ジョナサン・テテルマン(テノール)
マリーナ・モンツォ(ソプラノ)
マリーニヅフィー・ヤンケ?(メゾソプラノ)
エドゥアルド・ディ・カプア 《オー・ソレ・ミオ》
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)
ジョナサン・テテルマン(テノール)
マリーナ・モンツォ(ソプラノ)
マリーニヅフィー・ヤンケ(メゾソプラノ)

ウィリアム・ゴメス 《アヴェ・マリア》
エリーナ・ガランチャ(メゾソプラノ)



3. 試聴の経過

ドナウ川を見下ろす山頂に位置するシュティフト・ゲットヴァイク修道院の庭に設営された仮設ステージでのオペラ・ガラの演奏の収録で、由緒ありそうな修道院の風景も映し出されます。夕暮れを迎える頃から始まり、次第に日が落ちて星空の下でのコンサートとなります。

お馴染みのロッシーニの《ウィリアム・テル》序曲から始まり、司会の紹介を挟みながら、オーケストラによる序曲と間奏曲とラテンもの、独唱、2重唱、4重奏などが次々と演奏が進みます。

独唱は、メゾソプラノのガランチャ、ソプラノのモンツォ、テノールのテテルマン、メゾソプラノのヤンケです。野外演奏ですので、オーケストラの音はやや散漫ですが、ソリストは固定マイクがありますので、それぞれの歌唱は鮮明で、迫力のあるガランチャ、清純なモンツォ、張りのあるダイナミックなテテルマン、若々しいヤンケなど、それぞれの歌唱の特徴がよく分かります。

ペレス・ブラドの《マンボー》は、コンガなどが加わった、オーケストラ版の面白い編曲です。

レハールの歌劇《微笑みの国》と《オー・ソレ・ミオ》は、4人のソリストの競演で盛り上げます。







4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、オペラ・ガラらしい楽しさを盛り上げるプログラムの演奏が山頂の修道院の雰囲気とともに楽しめました。

以上